

ふるさと御所 文化財探訪

文化財課
☎60-1608

其の四十七

古墳時代 (35)

巨勢(許勢)氏の

台頭(7)

條ウル神古墳の被葬者像③

阪府)の大形の横穴式石室墳に採用されることの多い、二上山白色凝灰岩製の家形石棺(写真1は藤ノ木古墳)について、その石切場(香芝市域で多くみつがっています)は蘇我氏の管理下にあつて、各古墳に供給されたものと考えました。

ところで、條ウル神古墳の石棺蓋の縄掛突起は側面に3つずつ、小口に各1つずつの計8つの異例のもの(通常は側面に2つずつ)でした(8月号)。巨勢山640号墳(通称:條池南古墳)と樋野権現堂古墳でみられた家形石棺身の造り付けの石枕もこの2例しか知られていません(9月号)。

つまり巨勢氏の盟主は、二上山白色凝灰岩製の家形石棺について、自由なデザインを採用することが可能であつたということ

とになります。が、このようなことは他地域では認められないことから、巨勢氏こそがこの石切場の管理者で、二上山白色凝灰岩製家形石棺の供給者であつた可能性が浮かび上がります。

飛鳥時代に入ると古墳を築造できる階層がごく限られるようになり、精美的な切石造りの横穴式石槨が構築される



写真2 高松塚古墳 西壁 女子群像
(写真提供: 明日香村教育委員会)



写真1 藤ノ木古墳の石室と石棺
(転載許可: 斑鳩町教育委員会)



写真3 高松塚古墳 横口式石槨の外観
(石材の隙間は漆喰で充填している)
(写真提供: 独立行政法人 奈良文化財研究所)

ようになります。実は女子群像図(写真2)などの極彩色壁画で有名な高松塚古墳や、同じく飛鳥にあり、東西南北を守る青龍・白虎・朱雀・玄武の四神像や天文図で知られるキトラ古墳などに用いられた横口式石槨の石材は、まさにその二上山白色凝灰岩なのです。要するに、二上山白色凝灰岩製の部材を組み合わせた石槨(写真3は外面)の内面に漆喰を塗ってキャンバスを作り、そこに描かれたのがあの壁画ということになります。

巨勢氏はその後、高官を輩出する名門貴族となります。古墳時代に引き続き、高松塚古墳やキトラ古墳などの皇族たちの墓に、二上山白色凝灰岩を提供していたとしても何ら不思議はありません。わたしたちは條ウル神古墳の発見によって、改めて巨勢氏の権勢の大きさに気付かされました。

(文責 藤田和尊)

蘇我氏の専横が目立ち始めるのは蘇我馬子の頃からで、その馬子の墓とみられる石舞台古墳は最大級の横穴式石室として著名です。條ウル神古墳は、玄室の幅・長さの比率の上ではやや狭長の感はあるとはいえ、その石舞台古墳に比肩する規模であることに加え、最大級の家形石棺を有すること、そして、條ウル神古墳の被葬者が巨勢氏の盟主とみられることは、巨勢氏が並外れた権勢を有していたことを示すものとして重要です。

かつて和田晴吾さんは、畿内中枢部(奈良県・大